

会 議 録

会議名	平成24年度第1回宇都宮市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	平成24年8月28日(火) 10:00~11:45
開催場所	宇都宮市役所14A会議室
出席者	【委員】 郷間康久, 今井政範, 櫻井啓一, 駒場昭夫, 福田久美子, 大森玲子, 北條信男, 金枝右子, 大手弘子, 橋本克子, 上野すみ子, 鱒淵伸敏, 石島孝夫, 佐瀬敦, 遠藤健二, 神山正巳, 仲田陽介, 石井智子, 糸井陽子 【事務局】 環境部長ほか28名
公開・非公開	公開
傍聴者	2名
議題	1. 会長選出, 職務代理者指名 2. 宇都宮市一般廃棄物処理基本計画の取組状況について 3. 「宇都宮市廃棄物の処理及び清掃に関する条例」の一部改正について 4. その他
会議結果	1. 後日, 報告内容を公表する。 2. 各委員から出された意見等を, 取組内容の参考としていく。

会議内容	
「宇都宮市一般廃棄物処理基本計画の取組状況について」のうち「一般廃棄物処理基本計画の推進について」	
櫻井会長	質問がないので, 事務局の説明のとおりでよろしいか。
委員一同	異議なし

会議内容	
ごみ処理基本計画の取組状況について	
郷間委員	平成23年度の「焼却ごみ量」増加の原因の1つとして「震災の影響」を挙げているが, 前年と比較して, (4月よりも) 5月が増加し, 7月には減少している。(8月以降も増加している) また, 「人口増加」も挙げているが, 前年度も人口は同程度増加しているものの「焼却ごみ量」は減っている。 したがって, 増加の原因は, 「分別意識の低下」ではないか。
事務局	平成23年度年間で増加した「資源物以外のごみ排出量」は, 約3,800tであり, その約半分が4月~6月で増加したことから, 「震災の影響」があるものと考えている。 「人口の増加」の原因の1つである転入者について, 分別の徹底がなされていなかったものと考えている。 平成22年度から5種13分別が始まり, 「焼却ごみ量」は, 17,400t減少したが, 平成23年度は, 3,800tの増加となっていることから, 分別意識の希薄化もみられる。緊急対応として年度末に, 自治会回覧や地域限定でごみステーション

	<p>の巡回パトロールを行ったところ、違反シールが20%減少し、効果がみられた。今年度は、この対策を全市的に取り組んでいく。</p>
郷間委員	<p>今年度の4月から7月までの「焼却ごみ量」の実績はどのようか。</p>
事務局	<p>前年度比で、4月は400tの増、5月は220tの増、6月は260tの減、7月は1,000tの増であり、合計で約1,400tの増加となっている。 中核市の調査でも、35市のうち31市で焼却ごみが増加している。</p>
郷間委員	<p>廃棄物処理業者の2委員に、ごみステーションにおけるマナーの現状を伺いたい。</p>
仲田委員	<p>プラごみの中に、ライター混入があり、パッカー車の火災にもつながるので困っている。出す側の意識が変わらないと、このような状況は変わらない。</p>
神山委員	<p>学生は、分別はしてあるが、回収日を守らない。また、3月は引越しごみが多い。カミソリが焼却ごみに混入していて、作業員がけがをすることがあった。</p>
郷間委員	<p>やはり、ごみを出す方の意識に問題がある。自治会回覧、巡回パトロールだけでは限界があり、「焼却ごみ量」の減少には結び付かない。自治会未加入者等の対応をどうするかも重要である。 さらに抜本的な対策を考えて欲しい。</p>
事務局	<p>自治会未加入者への対応としては、不動産会社に対しての分別講習会の実施、大学へのごみの分別資料の配布を行っている。 周知・啓発については、リサイクル推進委員に巡回パトロールをお願いするとともに、ゴミステーションの実情を把握してもらって対応を図っていく。 なお、「焼却ごみ」は増加している状況だが、「資源物」も増加しているので、分別の徹底の一定の効果はあると考えている。</p>
石島委員	<p>H24においてもごみ量が増加している中で、ごみ量のうち生ごみの比率が50%を占めているようだが、今年度の比率も同様であるか。 生ごみのリサイクルは「中長期の取組」に含まれているが、現在のごみ量から考えると情報収集にとどまらず、生ごみをリサイクルする方向で検討してはどうか。</p>
事務局	<p>焼却ごみに占める生ごみは、3年に1度行っているごみ組成分析によると、直近のH22において家庭系ごみに占める生ごみの比率が45%であった。次回、ごみ組成分析を行った際の結果をもって、対応を検討したい。 事業系の生ごみに関しては、民間の許可施設を利用した資源化を推進しているところである。 家庭系の生ごみは、地域単位の資源化を推進しているところであり、地域の農園や花壇で生成物である堆肥を利用してもらっているため、今後は市域全体に広げたい。 また、生ごみ処理機の補助を推進し、個人単位での資源化も引き続き推進を図りたい。</p>
福田委員	<p>事業系生ごみを民間施設への利用はどれくらいか。家庭系生ごみの資源化の割合はどれくらいか。</p>
事務局	<p>生ごみ処理機の補助を活用した方に、3年に1度アンケート調査を行っているところである。また、処理機により資源化された生ごみは755tである。 大規模事業者からごみ減量に関する計画書が提出されているので、今後数字を把握していきたい。</p>
福田委員	<p>中学校でも給食の生ごみ処理を行っているところもあるが、大型の生ごみ処理機での安定的な処理は難しいので、地域単位での推進が必要となる。また、ごみが増加している中で、生ごみ資源化についての問題の洗い出しが必要となると思うが、どう考えるか。</p>
事務局	<p>ごみの資源化は生成物の利用先確保が大切となる。生ごみ処理機を導入した方は活用先が明確であることが多いため、他の地域に推進するには利用先を提案しながら推進したい。</p>

福田委員	中核市の資源物以外のごみ排出量を他市と比較すると、宇都宮市が少ないことが分かる。一方で、宇都宮市以上にごみ量が少ない自治体があるが取組の違いは何であるか。また、昨年度資源化量のうちエコスラグが減った理由を伺いたい。
事務局	ごみの排出量が少ない自治体では、ごみの有料化を行っているところがある。エコスラグの資源化量が減少した主な理由は、震災の影響に伴い公共工事自体が減少したことにより、エコスラグを含んだ舗装用のアスファルトの使用が減少したものである。また、放射性セシウムが少量含まれていたため、利用が減ったこともあると考えられる。
福田委員	H22より5種13分別が開始したことに伴い、プラスチック製容器包装がリサイクルされ、リサイクル率が高まったが、H23はリサイクル率が低くなっている。市民への意識啓発が大切であり、意識の醸成をどのように継続していくかが大切となってくる。 先ほど回答いただいた宇都宮市以上にごみの排出量が少ない自治体だが、有料化が行われていて、ごみを減量する意識が継続しているのか伺いたい。エコスラグは最終処分場の覆土として使用しているのか。使用している場合、資源化に含まれているのか。
事務局	宇都宮市よりごみの排出量が少なく、他自治体の有料化や現在の状況は把握していない。また、他市のごみ減量に関する事業内容等を今後調査し、本市のごみ減量の参考としたい。 エコスラグは最終処分の覆土に利用していない。
金枝委員	民生委員としてふれあい収集の説明を受けたが、担当地区にふれあい収集の対象者がいて、感謝されているのでご報告する。
櫻井会長	質問がないので、事務局の説明のとおりでよろしいか。
委員一同	異議なし。

会議内容	
生活排水処理基本計画の取組状況について	
櫻井会長	質問がないので、事務局の説明のとおりでよろしいか。
委員一同	異議なし。

会議内容	
「宇都宮市廃棄物の処理及び清掃に関する条例」の一部改正について	
福田委員	参酌基準は別に設けられているのか。
事務局	なし。
櫻井会長	質問がないので、事務局の説明のとおりでよろしいか。
委員一同	異議なし。

会議内容	
その他	
今井委員	先ほど他の委員より指摘があった生ごみ処理機の補助であるが、資源化に興味がある。

	ある方が機械を導入するとは思うが、生ごみの生成物の利用に困る方もいる。宇都宮市が積極的に回収し、売却したらどうか。今後検討してほしい。
糸井委員	<p>質問が4点ある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ごみの排出量が減少した場合において、市民への還元はあるのか。 2 ごみの収集時間が遅い場所もあるようだが、理由はあるのか。 3 宇都宮市は大きい通り沿いにもごみステーションがあるが、設置はどのように決めているのか。 4 今後、ごみの回収日に変更や見直しはあるのか。特に、ごみの分別がされているのに資源物の収集日が週1回であり、家の中の置き場に困っているのので、回収日を増やしてほしい。
事務局	<ol style="list-style-type: none"> 1 ごみ処理は分別を徹底し、資源化を図ってほしい。もし、ごみ量が減れば、その分の費用を必要な他事業に充てることもできる。 2 ごみの排出量やごみステーションの変動により時間はずれることもある。 3 ごみステーションは、おおよそ20世帯で1か所に設置しており、地域の話合いにより収集可能な場所を指定してもらっている。 4 資源物の収集回数を増やすと、収集の費用もかかるので全体で検討する。
石井委員	<p>質問が2点ある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小中学生にごみ問題や環境問題に触れさせることは、将来を担う子供たちが地域に目を向ける機会となるため、適切な資料や教材を配布したり、出前講座を行う必要があると考える。 2 リサイクル率を上げるため、最先端技術と市が関わって資源化を図り、市民に還元してほしい。
事務局	<ol style="list-style-type: none"> 1 小学4年生の社会科補助教材を作成しており、その教材をもとに出前講座を行っているのので、継続して実施していきたい。 2 最先端技術との関わりは、先進都市の対応を参考にしていきたい。 <p>答申として案のとおりでよろしいか。</p>